

2018 春の勉強会

【共催】一般社団法人 町の工務店ネット・手の物語 有限会社

もっと、建築でやろうよ。

4月
18日・19日
[Wednesday] [Thursday]

【集合】JR京都線(東海道本線)・山崎駅 ※19日は現地(大阪府阪南市・「柿の木荘」)解散。(南海電鉄「尾崎駅まで」徒歩約5分)
【座学・交流会会場・宿泊】和歌山 加太淡島温泉「休暇村 紀州加太」・大阪阪南「柿の木荘」
【定員】50名(両日&宿泊参加)
【参加費】29,800円/人(税別)(資料代・バス代・講師料(交通費含)・宿泊費(18日交流会・19日朝食含)・19日昼食(弁当)代等) ※宿泊部屋は、和室(4~5名)となります。



テーマ
A

建築事例を通じて木の家を見直す。

(敬称略)

京都郊外 山崎から、阪南、和歌山まで、4つの建物を爆裂ツアーする。

1 京都郊外

大山崎・上の田の家

設計/酒井敬洋
施工/ダイシンビルド



案内人/清水一人
(有限会社ダイシンビルド 代表取締役)

京町家の改修仕事の建築家のご主人と革靴職人の奥さん夫婦の家。清水マジックで105mm厚の断熱だけど高性能な家。



2 和歌山

びおハウスHモデルハウス

設計/半田雅俊
施工/和秋建設



案内人/松原美樹 他
(手の物語 有限会社)

寒い冬も暑い夏もパッシブに暮らせるびおソーラーを導入。その効果と、オープン後の営業活動を詳しく報告。



3 和歌山

高積山の見える家

設計/瀧川建築デザイン事務所
施工/和秋建設



案内人/前田純
(株式会社和秋建設 代表取締役)

和歌山「木の家をつくる会」発足のきっかけとなった記念的な建物。地元建築家と工務店によるコラボ作品。



4 阪南

特別講師/三澤文子
(Ms建築設計事務所)

三澤康彦 遺作 柿の木荘

康彦さんが逝ってもうすぐ一年。珠玉の遺作を文子さんの解説を受けながら見学します。木の家の極意を学ぼう。



テーマ

柿の木荘を会場に

直面する焦眉の課題を解き明かす

B

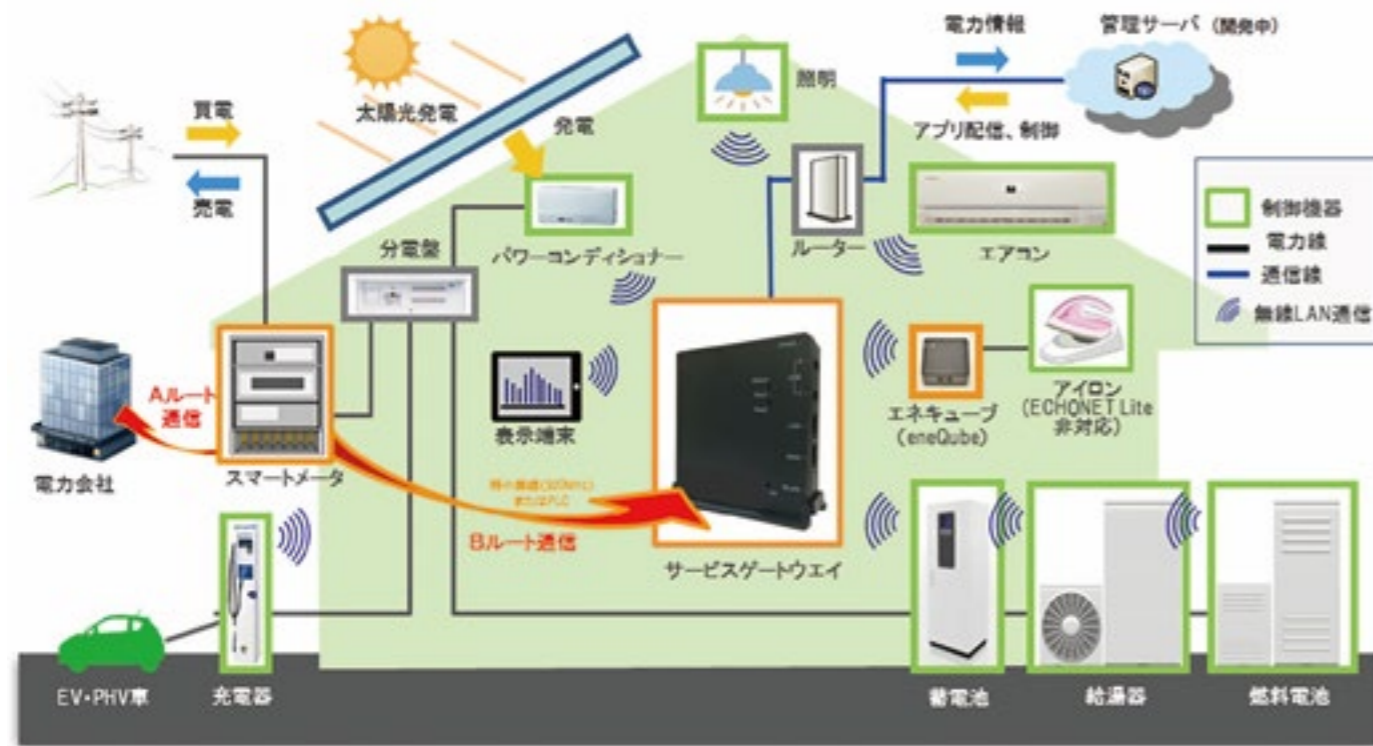
電力は「2019年問題」が迫っていると大騒ぎです。住宅業界はZEHやHEMSに目が向いています。工務店はそれでやって行けるのか、根本を問い直す。

「2019年問題」とは、2012年にスタートした再エネ固定価格買取制度（FIT制度）が来年保証期間が満期となることを指しており、今後、ユーザーは電力会社と相対取引化を余儀なくされます。

売電価格は、当初1kWhあたり48円でしたが、1kWhあたり10円程度になると言われており、電力会社の取引拒否もないとはいえ、また機器の劣化による更新に対しては補助金も期待できないことから、ZEHに言う創エネのエースである光発電がどうなるのか行方の不透明さが伝えられています。経産省と機器メーカーは、蓄電池開発や、かしこい利用のためのHEMS普及に走り出していて、それらは、今後補助金対象機器となるでしょう。

スマホ世代が愉しめる流れの醸成と、短サイクル性の実態と、長いスパンに比べられる建築的手法の関係性と、それらの選択の幅について可能性と現実を探り出すことは焦眉の課題です。そのためには、まず実態をよく把握した上で、「幸せな住まいとは何か?」という視点に立って、これらの機器について調べ、それぞれが見解を持たなくてはなりません。

勉強会では、これらの機器の最新情報と開発動向について佐塚昌則より、また、工務店と住まい手の幸せについて小池一三より報告をさせていただき、意見を交換したいと考えています。



九電テクノシステムズ・ホームページより

勉強会スケジュール

4月18日(水)

11:50 JR山崎駅集合(昼食は済ませてご参集ください) → 徒歩移動して「大山崎町上の田の家」を見学 → 和歌山に向けて出発 → 和歌山「びおハウスHモデルハウス」見学 → 和歌山「高積山の見える家」見学 → 加太淡嶋温泉「休暇村 紀州加太」到着 → 18:00 報告 ダイシンビルド(清水一人)・和秋建設(前田純) → 交流会

4月19日(木)

8:30 出発 → 三澤康彦遺作 / 大阪・阪南「柿の木荘」見学・座学開始「三澤康彦から学ぶ木の家」(講師:Ms 建築設計事務所三澤文子) → 15:00 終了・解散



「柿の木荘」内部。紀州街道に建つ築120年の家は、三澤康彦氏の手により、〈ゲストハウス+漆工房〉をもつ木の家に生まれ変わった。